

エネルギー白書から

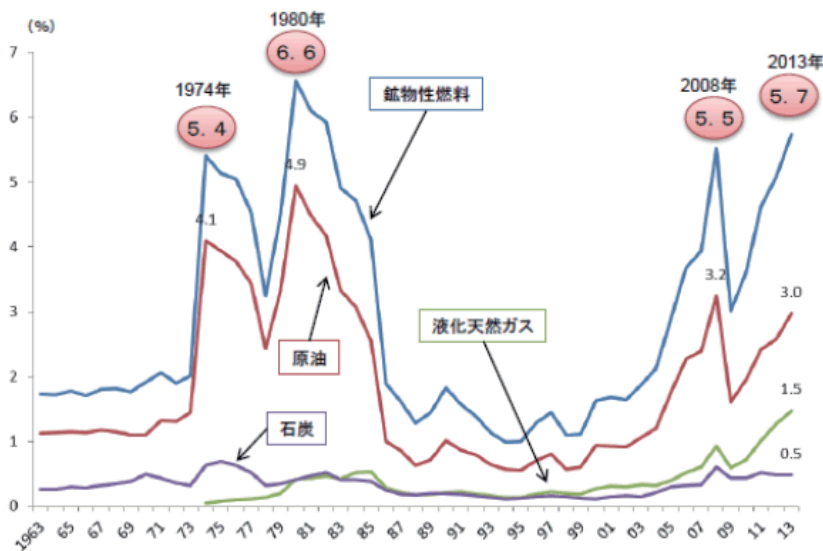
シリーズ第二部 「3・11及びその前後から顕在化してきた課題」

3 燃料輸入額（対GDP）と中東依存度の増大のもたらすもの

鉱物性燃料の輸入額の対GDP比の推移をみると、2013年で5.7%と、原油価格などの資源価格が高騰していた2008年を上回り、第一次石油ショック時と同程度の水準にまで上昇しています。特に、液化天然ガスの輸入額の対GDP比は過去最高となっています。

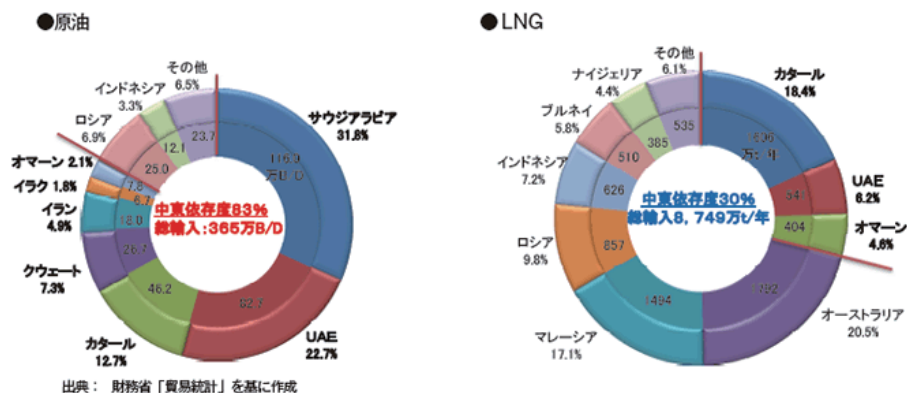
海外からの化石燃料への依存の増大は、資源供給国の偏りという問題も深刻化させています。現在、原油の83%、LNGの30%を中東地域に依存しており（2013年）、中東地域が不安定化すると、日本のエネルギー供給構造は直接かつ甚大な影響を受ける可能性があります。

鉱物性燃料の輸入額の推移（対GDP比）



(出典) 内閣府「国民経済計算」、財務省「貿易統計」を基に作成

原油・LNGの輸入先と中東依存度（2013年）



(出典) 財務省「貿易統計」を基に作成